

丹波並木道中央公園の指定管理者の管理運営に関する評価 (県立都市公園指定管理者候補者選定委員会)

県立都市公園指定管理者候補者選定委員会は、県から指定管理者の業務実施状況をヒアリングし、以下のとおり指定管理者の管理運営に関する評価を行った。

1 評価項目毎の評価

1-1 施設維持管理業務

丹波地域の環境・文化・景観を継承する公園として、植栽管理や清掃、点検は年間を通じて管理水準以上の回数を実施し、良好な維持管理が行われている。

また、地域の活動団体による園内の美化活動にも積極的に取り組んでおり、園内の桜の維持管理活動を行う「サクラサク」桜守プロジェクトでは、ささやま桜協会と連携して「桜守」を育成し、ボランティアによる適切な維持管理を行うとともに、丹波地域の桜を継続的に維持管理できる体制づくりにも寄与している。

利用者満足度調査において、施設維持管理の満足度は高い割合を示している。

(参考) 利用者満足度

公園の施設維持管理に関わる満足度は以下のとおりである。

(利用者満足度調査における「満足」「やや満足」と回答した割合)

花壇、樹木等の手入れ

項目	H28	H29	H30	R1
満足	64%	68%	75%	75%
やや満足	28%	25%	20%	23%
合計	92%	93%	95%	98%

公園内の清掃

項目	H28	H29	H30	R1
満足	66%	70%	75%	74%
やや満足	24%	21%	19%	21%
合計	90%	91%	94%	95%

1-2 運営業務

公園内の資源循環を実践する環境学習の場として、公園内の間伐材を園内の製材所で製材後、材料として活用した木工教室、クラフト教室の体験プログラムを実施し、地域の里山管理のモデルとなるような魅力ある公園づくりに取り組んでいる。

また、公園内の地産地消に向けた取り組みとして、園内の棚田における農業体験、里山の暮らし文化体験を実施し、地元自治会や関係団体等と連携して棚田管理や収穫体験などのプログラムを積極的に実施している。

県民参画の公園運営を目指して、住民参加型イベントとして地域団体などと連携して取り組む「なみきみちまつり」は毎年6～7千人が参加するイベントとして開催されるほか、夏期の夕方に実施する「なみきみちナイトパーク」は近隣地域の住民を中心として約千人が参加するイベントとして定着しており、地元自治会やまちづくり協議会への積

極的なPRによって多くの来園者数を維持している。

さらに、丹波地域恐竜化石フィールドミュージアムの拠点施設として化石発掘体験等のイベントを実施し、地域独自の歴史や文化を活用した新たな公園の魅力向上にも努めている。

(参考) 利用者満足度

イベントに関わる満足度は以下のとおりである。

(利用者満足度調査における「満足」「やや満足」と回答した割合)

イベントの数と内容

項目	H28	H29	H30	R1
満足	29%	33%	41%	45%
やや満足	20%	20%	25%	24%
合計	49%	53%	66%	69%

[備考] 自由意見欄には『イベント数を増やして欲しい』という意見があった。

1-3 利用状況

指定管理者が公募時に提案した目標年間来園者数(年間13.5万人)に対して、平成28年度は14.1万人、平成29年度は14.2万人、平成30年度は13.5万人、令和元年度は15.9万人であり、目標を達成している。台風や豪雨の影響があった平成30年度を除くと年間来園者数は増加している。

本公園の魅力アップにつながるイベントや環境活動をより周知するため、機関誌やフェイスブックを活用した広報に積極的に取り組み、イベントの案内や公園内で見ることができる四季折々の植物などの情報を提供している。公園の知名度向上によって、今後のさらなる利用促進が期待できる。

1-4 収支状況

維持管理業務のうち直営化が可能なものは極力直営で実施し、経費の縮減に努めている。

また、作業経験豊富な職員による木材加工技術を活かして、園内で発生した間伐材を公園内の柵や樹名板などに使用するなど経費節減に努めるとともに、公園の魅力を伝える取り組みとしての効果も発揮している。

1-5 運営体制

公園利用者の多い土日祝日は、窓口業務、巡回業務など利用者の対応に十分対応できる人員を配置している。利用者の苦情・要望等は電話・Eメール、園内などで随時受け付け、可能なものは即時対応を行っている。

また、県民参画型プログラムの充実を目指し、園内を熟知したパークコーディネーターがイベント等を主体的に実施できる体制を構築するほか、公園の利活用について助言する「なみきみちヘルプデスク」や新たに活動団体の交流を促す「なみきみちクラブ」を創設し、住民グループとのコミュニケーションを円滑にすることができる運営体制を整

備している。

運営体制に関わる利用者満足度は、毎年上昇傾向にある。

(参考) 利用者満足度

運営体制に関わる満足度は以下のとおりである。

(利用者満足度調査における「満足」「やや満足」と回答した割合)

職員の対応

項目	H28	H29	H30	R1
満足	48%	52%	65%	58%
やや満足	20%	19%	14%	21%
合計	68%	71%	79%	79%

2 総合評価

本公園は、人と自然と文化が調和した地域づくりを目指す「丹波の森構想」の中核拠点として、みんなでつくり、育てる公園をテーマに参画と協働によって計画・整備した広域公園であり、「森づくりから森づかいへ」を基本コンセプトに、地域の人々の参画のもと、公園内での資源を活かしたプログラムやイベントによる運営管理を推進している。

この取り組みにより、「なみきみちまつり」や「間伐材利活用」など、地域と連携したプログラムの実施や公園資源を活かした事業推進に成果をあげ、安定的に利用者の高い満足度を得ている。

これらのことから指定管理者は適正に業務を実施していると評価できる。

なお、丹波の森の中核施設として、都市と農村の交流、地域活性化、森林の新たな保全再生モデルの実現を目指して、多彩な自然体験プログラムを実施する本公園の活動を継承し、より魅力的な森の空間を体感できる公園づくりの実現が期待される。

有馬富士公園の指定管理者の管理運営に関する評価 (県立都市公園指定管理者候補者選定委員会)

県立都市公園指定管理者候補者選定委員会は、県から指定管理者の業務実施状況をヒアリングし、以下のとおり指定管理者の管理運営に関する評価を行った。

1 評価項目毎の評価

1-1 施設維持管理業務

公園利用者の快適な利用を目指し、植栽管理については園内の高木、中低木剪定、広大な芝生広場における芝刈りや機械除草の回数を増やし、景観への配慮のほか、安全で快適な公園環境の維持に努めている。施設管理については利用頻度の高いトイレなどの清掃頻度を高めるなど、常にきれいで来園者が利用しやすい状態に保つよう努めている。

また、本公園では住民の参画と協働による公園運営を行う「夢プログラム」制度を設けており、活動グループが指定管理者とともに自然環境、里地里山の保全活動や維持管理などを行うこととしている。これまでの地元活動団体による茅葺民家の維持管理を継続するとともに、新たに地域のボランティアと連携した棚田・里山管理にも取り組み、里山保全活動による公園の利活用とともに、イベント等を活用した公園の魅力向上にも寄与する取組みを拡充している。

公園の施設維持管理に関わる利用者満足度は高い水準を維持している。

(参考) 利用者満足度

公園の施設維持管理に関わる満足度は以下のとおりである。

(利用者満足度調査における「満足」「やや満足」と回答した割合)

花壇、樹木等の手入れ

項目	H28	H29	H30	R1
満足	53%	56%	57%	63%
やや満足	37%	32%	32%	29%
合計	90%	88%	89%	92%

公園内の清掃

項目	H28	H29	H30	R1
満足	65%	53%	51%	54%
やや満足	26%	31%	35%	34%
合計	91%	84%	86%	88%

1-2 運営業務

各種イベント、利用者ニーズに応じた公園・施設の利用時間の延長、車椅子・ベビーカーの配備、ユニバーサルデザインに配慮した自販機の設置等、利用者支援や利用者サービスの向上に努めている。

また、子育て支援や健康づくりに資する多様なイベントを実施し、夢プログラムを

実施する既存活動団体との連携を維持するとともに、新規活動団体の公募を継続的に実施するなど管理運営の活性化にも努めている。

広報活動についてはホームページやSNSを活用し、公園のイベントなどを周知するための情報発信を積極的に行っている。今後の更新頻度の向上、利用者層にあった広報活動の実施など、さらに公園の魅力を発信するための広報活動の充実に期待したい。

(参考) 利用者満足度

イベント及び情報発信に関わる満足度は以下のとおりである。

(利用者満足度調査における「満足」「やや満足」と回答した割合)

イベントの数と内容

項目	H28	H29	H30	R1
満足	29%	33%	41%	45%
やや満足	20%	20%	25%	24%
合計	49%	53%	66%	69%

情報発信の充実度

項目	H28	H29	H30	R1
満足	55%	46%	39%	45%
やや満足	27%	26%	37%	35%
合計	82%	72%	76%	80%

1-3 利用状況

指定管理者が公募時に提案した目標年間来園者数(年間85.0万人)に対して、平成28年度は81.4万人、平成29年度は78.0万人、平成30年度は74.5万人、令和元年度は78.3万人であり、目標年間来園者数が未達成の状況にある。

有馬富士公園らしい特色あるイベントをこれまで以上に工夫しながら実施するとともに、当公園の主要な利用者層である子育て世代に向けたプログラムや広報活動の充実によって、より魅力ある公園となることが期待される。

1-4 収支状況

園芸・公園協会本部や経験豊富な職員による協力体制を組み、作業の効率化を図るとともに、維持管理業務のうち直営化が可能なものは極力直営で実施し、経費の縮減に努めている。

また、公園利用者の利便性向上のための住民グループなどによる飲食、物販による収益事業にも積極的に取り組み、収入を公園の維持管理費に充当し収支バランスを維持するとともに、今後の参画と協働による公園施設の管理運営方法としてさらなる発展が期待される。

1-5 運営体制

公園内で発生するトラブルや事故等に対して迅速に対応できるよう、公園利用者の多い日に重点を置いた適切な人員配置を行っている。

また、これまでの夢プログラムによる活動グループ間の連携のほか、三田市立有馬富士自然学習センターや有馬富士共生センターなどの関連施設との連携によって新たな運営体制を構築することができれば、公園施設を有効活用したより多様なイベントなどへの発展が期待できる。

(参考) 利用者満足度

運営体制に関わる満足度は以下のとおりである。

(利用者満足度調査における「満足」「やや満足」と回答した割合)

職員の対応

項目	H28	H29	H30	R1
満足	72%	54%	67%	72%
やや満足	18%	27%	25%	21%
合計	90%	81%	82%	93%

2 総合評価

本公園は、「みんなでつくるふるさと公園」をテーマに、県、市、関係機関が連携し、県民とのパートナーシップによる公園運営を積極的に推進している。特に、人と自然の博物館と連携した住民参加型の里山保全活動を実施するなど、公園の魅力向上に資する新たな参画と協働の取組みを推進していることは高く評価できる。

この結果、夢プログラムの活動グループをはじめとした各団体等との連携によるイベントの開催などによって、公園の活性化に成果をあげている。

これらのことから指定管理者は適正に業務を実施していると評価できる。

なお、開園 20 年を迎え、本公園の参画と協働による管理運営の取組みが住民参加型のモデル公園として全国的に知られ、次の展開が求められるなか、これまでの参画と協働による里山保全や環境学習などの取組みをさらに発展させるとともに、そのノウハウを周辺他公園にも普及していくことが期待される。

一庫公園の指定管理者の管理運営に関する評価 (県立都市公園指定管理者候補者選定委員会)

県立都市公園指定管理者候補者選定委員会は、県から指定管理者の業務実施状況をヒアリングし、以下のとおり指定管理者の管理運営に関する評価を行った。

1 評価項目毎の評価

1-1 施設維持管理業務

当公園は、敷地の大部分が北摂地域を代表する豊かな里山であることから、地域の自然環境や里山文化・景観を継承する場として位置づけ、園内の林を活用した里山の生態や管理手法などの環境学習を担う公園として管理運営を行うこととしている。

園内の植栽管理は、クヌギ林再生のため公園で活動する「ひとくらクラブ」をはじめとする住民グループと連携し、下草刈りや伐採、獣害対策に取り組み、森林資源の保全に配慮した維持管理に努めている。

また、維持管理作業で発生した間伐材などを炭焼教室など公園のイベントで有効活用している。

園内で多くの来園者が利用する芝生広場については、芝生を適正に維持管理するほか、獣害による野生鹿の糞清掃を行い美観維持にも努めている。利用頻度の高い芝生広場周辺のトイレなどの公園内清掃を適切に行い、美観維持に努めている。

(参考) 利用者満足度

公園の施設維持管理に関わる満足度は以下のとおりである。

(利用者満足度調査における「満足」「やや満足」と回答した割合)

花壇、樹木等の手入れ

項目	H28	H29	H30	R1
満足	80%	63%	66%	73%
やや満足	18%	25%	29%	21%
合計	98%	88%	95%	94%

公園内の清掃

項目	H28	H29	H30	R1
満足	66%	53%	58%	69%
やや満足	26%	31%	29%	23%
合計	92%	84%	87%	92%

1-2 運営業務

住民グループや有馬富士公園を含む他公園、近隣の教育機関との連携によって、公園の自然環境や園内の廃材を利用した炭焼体験ができる「ひとくら炭焼き体験塾」など地域の伝統技術などを活かしたプログラムを展開し、公園の魅力向上に努めている。

また、利用者の多い季節には各施設の利用時間を延長するなど、利用者サービスの向上に努めており、日常的に職員の挨拶・声かけや巡回によってゴミの不始末等も未然に防ぎ、快適に過ごせる公園づくりに努めている。

(参考) 利用者満足度

イベントに関わる満足度は以下のとおりである。

(利用者満足度調査における「満足」「やや満足」と回答した割合)

イベントの数と内容

項目	H28	H29	H30	R1
満足	50%	38%	40%	41%
やや満足	24%	30%	34%	25%
合計	74%	68%	74%	66%

1-3 利用状況

指定管理者が公募時に提案した目標年間来園者数(年間23.0万人)に対して、平成28年度は23.0万人、平成29年度は23.1万人、平成30年度は19.0万人、令和元年度は23.9万人であり、平成30年度を除きほぼ目標を達成した。

なお、平成30年度は7月豪雨や台風の影響によって約1ヶ月半の閉園期間があったことなどによって目標年間利用者数を達成できなかったが、閉園時は復旧活動や安全確保に取り組み、早期再開に努めた。

1-4 収支状況

植物管理や施設修繕等で直営化が可能なものは極力直営で実施し、委託経費を抑えることで経費節減に努めた。

また、展望広場における眺望確保のため企業CSR活動による樹木伐採を実施するなど、企業や住民グループと連携した公園の維持管理活動に積極的に取り組んでおり、植物管理にかかる経費節減とともに、県民参加型プログラムやイベントと組み合わせた今後の参画と協働の取組みへの発展が期待される。

1-5 運営体制

日常的に公園内の適切な人員配置に努め、苦情や要望などに迅速に対応している。

また、公園周辺の一庫ダムなどの近隣施設や住民グループ、教育機関と連携した環境学習や里山保全活動を円滑に実施できる体制づくりを行うとともに、さらなる運営体制の拡充に向け、近隣の自治体や北摂里山博物館構想に位置づけられている他の里山施設との連携を図るよう努めている。

(参考) 利用者満足度

運営体制に関わる満足度は以下のとおりである。

(利用者満足度調査における「満足」「やや満足」と回答した割合)

職員の対応

項目	H28	H29	H30	R1
満足	72%	54%	63%	69%
やや満足	18%	27%	24%	16%
合計	90%	81%	87%	85%

2 総合評価

本公園は、恵まれた自然環境や豊かな生態系を後世に伝えるとともに、この地域の里山文化や伝統技術などを広く継承していく場として位置づけられ、一庫公園を含む北摂地域が「里地里山保全再生モデル事業区域」として選定されている。

これを踏まえ、茶の湯で珍重される一庫炭（菊炭）の材料となるクヌギ林をはじめ、各所に残る炭焼窯跡や銀銅採掘の間歩跡などを活かしながら、利用者参加型の環境学習や里山体験学習を行うほか、住民活動グループとの協働によって生物多様性の保全と創出に関する取組みを展開している。

この結果、地域との連携や自然環境、公園資源を活かしたプログラムの推進に積極的に取り組み、利用者の高い満足度も得ている。

これらのことから指定管理者は適正に業務を実施していると評価できる。

今後、北摂里山の持続的な保全を図り、北摂地域の活性化につなげることを目的とする「北摂里山博物館構想」のビジターセンターとしての機能を発揮し、里山間のネットワークを広げる基盤づくりへの取組みが期待される。

尼崎の森中央緑地の指定管理者の管理運営に関する評価 (県立都市公園指定管理者候補者選定委員会)

県立都市公園指定管理者候補者選定委員会は、県から指定管理者の業務実施状況をヒアリングし、以下のとおり指定管理者の管理運営に関する評価を行った。

1 評価項目毎の評価

1-1 施設維持管理業務

本公園では、住民や活動団体、企業等との連携による育苗、植樹活動を行い、生物多様性の森づくりを進めている。種子から育苗する苗木や植樹活動によって植樹された樹木は、専門スタッフが植物の生育状況を見極めながら良好な成育環境の維持に努めている。

植栽管理では、利用者の多い大芝生広場の芝刈りや草地の草刈りの頻度を増やして来園者が快適に利用できるよう配慮していることは特に評価できる。

施設管理では、パークセンターなど利用者の多い施設の清掃や点検回数を増やすなど、利用頻度に応じた良好な維持管理を行っている。利用者満足度調査においても満足度が高い。

(参考) 利用者満足度

公園の施設維持管理に関わる満足度は以下のとおりである。

(利用者満足度調査における「満足」「やや満足」と回答した割合)

花壇、樹木等の手入れ

項目	H30	R1
満足	68%	70%
やや満足	23%	15%
合計	91%	85%

公園内の清掃

項目	H30	R1
満足	75%	74%
やや満足	19%	13%
合計	94%	87%

1-2 運営業務

本公園の特徴である生物多様性の森づくりを活かした環境学習に積極的に取り組み、小学生を対象とした「環境体験事業」や、来園者が自然環境を楽しく学べる「環境体験プログラム」を実施している。特に、一般向け環境体験事業は、目標を大幅に上回る参加者があり評価できる。

また、生物多様性に関する主体的な活動ができるボランティアを養成する「環境学習サポーター養成講座」を開催し、県民の参画と協働の推進にも寄与する取組みとして期待できる。

新たに設置された茅葺き民家では、「むかし遊び」や「ひな飾り」の体験プログラムなど地域文化を伝承するイベントを開催し、公園の新たな魅力アップにも努めている。

さらに、公園の賑わいづくりのための集客イベントを積極的に誘致し、平成30年度は延べ2万人以上、令和元年度は延べ3万人以上を集客し、目標を大幅に上回っていることは特に評価できる。今後のイベントの継続がさらなる公園の認知度向上につながる取組みとして期待できる。

夕方に入らぬイベントの開催時には駐車場などの利用時間を延長し、利用者サービスの向上にも努めている。イベントに関する利用者満足度調査においても来園者の満足度が高い割合を示している。

(参考) 利用者満足度

イベントに関わる満足度は以下のとおりである。

(利用者満足度調査における「満足」「やや満足」と回答した割合)

スタッフの対応

項目	H30	R1
満足	83%	76%
やや満足	14%	14%
合計	97%	90%

イベントの感想

項目	H30	R1
満足	77%	70%
やや満足	21%	21%
合計	98%	91%

1-3 利用状況

指定管理者が公募時に提案した目標年間来園者数（平成30年度20.0万人、令和元年度25万人）に対して、平成30年度は18.9万人、令和元年度は24.9万人であり、ほぼ目標を達成できている。来園者数は未達成であるものの新規イベントに取り組んだことなどによって、令和元年度は目標来園者数に近い値となっている。

本公園の魅力アップにつながるイベントや環境活動をより周知するため、ウェブマガジンやフェイスブックを活用した広報に積極的に取り組み、イベントの案内や小学生による環境学習記録、森づくりの定例活動、イベントの実施レポート、公園内で見ることができる四季折々の植物などの情報を提供している。公園の知名度向上に寄与する広報活動によって、今後の利用者増が期待できる。

1-4 収支状況

育苗や樹木管理など専門的な知識や技術が必要な維持管理作業は、経験豊富な職員や専門職員による協力体制を組むことで作業の効率化を図っている。イベント業務については直営化可能なものは極力直営で実施し、経費の縮減に努めている。

これらの取り組みによって毎年度の収支はほぼ均衡している。

1-5 運営体制

参画と協働による生物多様性の森づくりに継続的に取り組むため、生物多様性に関する幅広い知識と経験を有する生物多様性チーフコーディネーターを配置するとともに、参画と協働、環境学習、生物多様性、森づくりの各コーディネータと各分野を担当する専門スタッフを配置し、質の高い事業を実施している。

また、環境体験事業をサポートするボランティアを養成する「環境学習サポーター養成講座」を開催し、ボランティアや地域住民グループと連携して環境学習や里山の暮らしを体験できるプログラムを実施する等、地域のネットワークや関係機関との良好な関係による運営体制を活かした取組みを進めている。

利用者満足度調査でも運営体制に関わる満足度が高い割合を示している。

(参考) 利用者満足度

運営体制に関わる満足度は以下のとおりである。

(利用者満足度調査における「満足」「やや満足」と回答した割合)

職員の対応

項目	H30	R1
満足	78%	74%
やや満足	12%	11%
合計	90%	85%

安全・安心

項目	H30	R1
満足	72%	70%
やや満足	18%	20%
合計	90%	90%

2 総合評価

本公園は、種子採取から植樹、森育成まで住民や活動団体、企業などと連携し、参画と協働による生物多様性の森づくりのほか、環境学習や各種イベントなどの利活用が行われており、「尼崎 21 世紀の森構想」の拠点地区として森の成長とともに公園の利用促進につながる多様な取組みを積極的に推進している。

この結果、環境との共生を学ぶ場としての利活用の促進、多様な主体との連携による事業推進に成果をあげ、安定的に利用者の高い満足度も得ている。

これらのことから、指定管理者は適正に業務を実施していると評価できる。

なお、水と緑豊かな自然環境の創生による尼崎臨海地域の環境の回復や都市再生を実現するため、「尼崎 21 世紀の森構想」の拠点地区として、参画と協働による生物多様性の森づくりを推進し、森づくり、人の交流、都市再生を先導するとともに、それらの成果を長期的、持続的に尼崎臨海地域に波及させる取組みが期待される。